

## イクスカーションに参加して

高橋 勲 (のとじま臨海公園水族館)

My impressions about the excursion of the 13th Congress of JCR at Sado Is., Japan

Isao Takahashi (Notojima Aquarium)

平成13年6月15日正午過ぎ、あいにくの梅雨空の中新潟港からおおさど丸が出港した。今大会は自分自身初めて訪れる佐渡で行われるということで非常に楽しみにしていた。約2時間30分後両津港に到着し、はじめに願誓寺というお寺のクジラの戒名がついた墓石を見学した。地元の方のお話を聞き、佐渡とクジラとの歴史的な繋がりを感じた。次いで私がこのイクスカーションで最も楽しみにしていた佐渡トキ保護センターを訪れた。センター内に入るとトキの生態や歴史などがパネルや写真、VTRなどで詳しく解説されており大変興味深いものだった。特に日本産最後のオスであるミドリの剥製と骨格標本、そして羽根の展示には思わず食い入るように見入ってしまった。しかし、人工孵化によって誕生した雛たちの一般公開は7月からということで肉眼で見ることができず非常に残念であった。(写真1)

翌日はホテル大佐渡で研究発表会が行われ、セトロジー研究会会員のみならず佐渡の一般の市民も参加した大

変活気あるものであった。こうした発表会に多くの方々に参加することで鯨類への興味・理解がさらに得られるのではないかと感じた。(写真2、3)



写真1 トキ保護センター

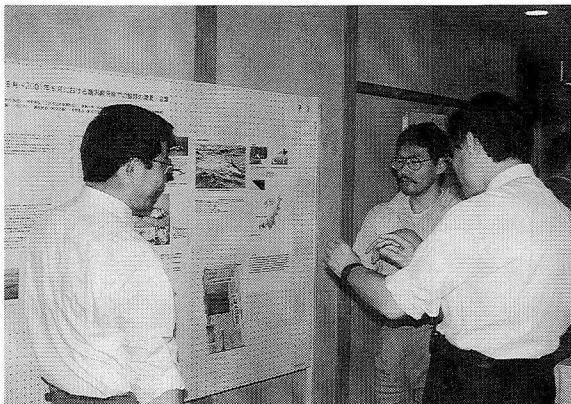


写真2 パネルディスカッション



写真3 研究発表

そして迎えた最終日、最初にトキ保護センターと並んで佐渡で最も有名な観光地の1つである佐渡金山を訪れた。坑道内では当時の作業風景がちょっとユーモラスな人形で再現されていた。また、金の延べ棒を実際に触ることができる場所もあり、一生の思い出にとしっかり触った。その後八幡佐渡博物館や佐渡で唯一五重塔のある妙宣寺などを訪れ、佐渡の歴史や文化などにも触れることができた。

今回のイクスカーションは例年のような水族館見学ではなかったが、佐渡の観光、文化、歴史など多くの面を大変楽しく見学させてもらった。そして、また機会があればぜひ訪れてみたいという気持ちで両津港を後にした。今回の大会及びこの企画の準備、運営に奔走されたウインズコーディネートの皆様や佐渡の関係各位、写真を提供して下さった柏崎市立博物館の箕輪一博氏にこの文面をお借りして心からお礼を申し上げる。